

パレスチナ赤新月社医療支援事業（レバノン）の評価とアセスメント

国際医療救援部 国際救援課長 池田載子

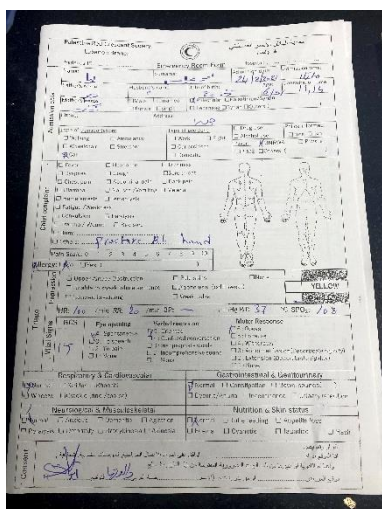
派遣期間：2021年8月17日～11月17日

派遣地：レバノン共和国

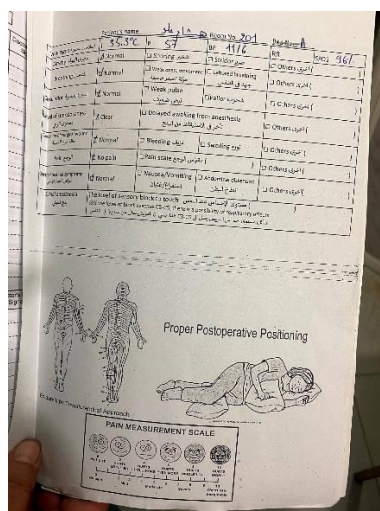
2021年8月～11月の3か月間、レバノン共和国で行われているパレスチナ赤新月社医療支援事業の第一期の評価と、第二期のアセスメントを行ってきました。

第一期事業は2018年4月から3か年の予定で、レバノンにあるパレスチナ赤新月社の5つの病院に対して医療支援事業を行うというものでした。しかし、2020年の3月に新型コロナウイルス感染症のため、日赤要員は急遽帰国しました。実際の要員の派遣ができないまま、その後はオンラインで事業のモニタリングを2021年9月まで継続していました。

救急外来の診療録を作成し、救急でのトリアージをハイファ病院、ハムシャリ病院、バルサム病院で導入しました。1年間活動を継続していたハイファ病院の診療録記載率、トリアージ実施率が高かったのですが、実際に行ってみると私たちの活動目標を上回る成果を出していました。救急外来では、新しく雇用された看護師にもしっかり診療録の書き方やトリアージの方法を教育するシステムが定着していました。また、日赤が活動を行うまでは、救急の記録は保管されていなかったのですが、新しい診療録をアーカイブし、再受診した際に活用できるようにしていました。ハイファ病院の医師に何が一番日赤の活動で役に立っているかという質問に対し、「救急の診療録だ。継続治療に役立てている」という答えが一番返ってきました。さらに、病棟では大阪日赤の看護師が作成した体位交換用枕も使用されていました。術後の観察チェックリストもラミネートして、使用できるようにしていたものが、印刷され、記録されて入院カルテに綴じこむように改善されていました。



記載された救急診療録



術後観察チェックリスト

また、同行していた医師が超音波検査のフォローアップトレーニングを行い、救急外来で

の虫垂炎と診断できるようになるなど確実に技術が身につけてきていました。



トレーニングを行う益田医師



真剣にトレーニングに取り組む現地医師

第二期事業のアセスメントは 5 つの病院のフォーカルパーソンへの個別インタビューや自病院の SWOT (強み・弱み・機会・脅威) 分析を行うワークショップを行うことにより、状況のアセスメントやニーズ調査を行いました。病院の状況だけでなく、レバノンの状況が第一期事業開始前に行った時と激変していました。国としての財政が破綻し、スーパーインフレ状態にありました。公的為替レートでは 1 米ドルが約 1500LBP (レバノンポンド) ですが、実際の為替は 24,000LBP になっています。ほとんどのレバノン人やパレスチナ人は給料を LBP で支給されていますが、給料はインフレ上昇にまったく対応していません。しかもレバノンは多くの食料や資材、燃料などを輸入に頼っています。特に燃料と医薬品の不足と価格の高騰は病院経営に大きな影響を及ぼしています。レバノン政府は 1~4 時間程度しか供給できなくなり、その分は各病院が発電機を使用して賄わなければならなくなっています。

UNRWA (国連パレスチナ難民救済事業機関) がパレスチナ難民に対する医療費の全額、あるいは一部負担を行っています。パレスチナ赤新月社の病院は UNRWA と契約を結んでおり、パレスチナ難民に対する医療に関して重要な位置を占めています。しかし、医薬品や医療資機材、燃料の高騰により治療費は高騰していますが、インフレ率と同じように治療費を値上げするとほとんどのパレスチナ人は病院を受診できなくなっているため、治療費の値上げを 2~3 倍程度に抑えています。一方でレバノンの病院の治療費は 10 倍以上になっています。そのため、経済的に困窮しているレバノン人もパレスチナ赤新月社の病院を受診するようになってきています。受診者数が増加するほど、病院経営が困難になっているという矛盾が起こってきています。鎮痛剤や一般的な抗菌薬さえ入手困難になっており、必要な医療が提供できない状況です。

パレスチナ赤新月社の病院の医療レベルに関しては、レバノンの病院の医療レベルとの格差が拡大しているように感じました。その大きな要因として、医師・看護師の人員不足と、20 年近く技術、知識のアップデートがされていないことが挙げられます。パレスチナ赤新月社の医師も看護師も、そのことを実感しており、「最先端の医療の知識や技術」を得るこ

とに一生懸命です。しかし、実際には腹腔鏡下手術などの「最先端の医療」がパレスチナ人の疾病構造や病院を受診する患者に適応したものとは言えないことも出てきました。向上心があるがゆえに、基本的な感染管理や抗菌薬を含めた薬剤投与、記録、術後の観察やケアなどの基本的なことがおろそかになっている部分も多くありました。



PCR 検体採取ですが十分な防御がされていません。



陰圧室など設備が整った新型コロナウイルス感染症病棟

日赤の強みは医療職が多く、専門分野の幅も広いことです。継続的に医療職を派遣し、パレスチナ赤新月社の病院に必要な技術や知識を提供できると、このアセスメントを行い実感しました。第二期事業は2022年4月から3か年の予定で開始されます。パレスチナ難民の方々に合った医療が提供できるよう支援を続けていきたいと思えます。